

## ワークショップ 5

### 「高齢者の消化管出血の最近の傾向と対策」

司会 内藤 裕二（京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学）

山田 拓哉（大阪労災病院消化器内科）

75歳以上の人口が2020年には国民の約15%、2030年には約20%に達するとされている。高齢者の消化管出血は消化管潰瘍、消化管粘膜血管異形成、消化管憩室、静脈瘤など多岐にわたるが、*H. pylori*の感染率低下、除菌後患者の増加、非ステロイド性消炎鎮痛薬（NSAIDs）や抗血栓薬内服などの背景因子がその病態、治療に複雑に影響する。また、高齢者では若年者と比べ併存疾患の多さや全身状態が悪いことにより治療戦略が限られる点も問題である。本ワークショップでは、高齢者の消化管出血をテーマとし、近年の出血の原因疾患の傾向や、各々に対する対策、治療法など様々な観点から活発な議論をしたい。多数例の報告のみならず、少数例であっても興味深い症例を含めた報告を期待する。